

平成30年度 地域連携活動報告書

協定締結日	2016/3/22	連携先名称	福島県北塩原村
活動状況	継続中	連携先窓口	北塩原村役場農林課
活動資金	補助金	担当教員(所属)	野口智弘 (応用生物科学部食品加工技術センター)
活動体制 (単位)		関連教員(所属)	入江憲治 (国際農業開発学科)
活動内容	<p>1.学生の農業体験および交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北塩原村農家における本学学生の農業体験実習の受け入れを通し、学生の実際の農作物政権現場への理解を深める活動を実施。</li> </ul> <p>2.観光資源開発</p> <p>下記項目に重点を置き、農業生産活動を通した観光資源開発支援を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エミュー繁殖へのサポート。</li> <li>・ザル菊による観光資源開発への協力。</li> <li>・キクイモ生産支援など。</li> <li>・学生のアイデアを取り入れた農産加工品の共同開発。</li> </ul>		
活動成果	<p>1.学生の農業体験および交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北塩原村農家による農業体験実習の受け入れ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験モニターツアー <ul style="list-style-type: none"> <li>第一回目 9月15日～18日 (3泊4日) 農学部を学生を中心に21名 (男9名、女12名) 参加。 主な活動：農作業補助。地域イベントへの参加。地域住民との意見交換会開催。農産加工品開発に向けた原料加工。</li> <li>第二回目 2月15日～17日 (2泊3日) 農学部を学生を中心に23名 (男12名、女11名) 参加。 主な活動：農産加工品製造。地域イベントへの参加。地域住民との意見交換会開催。</li> </ul> </li> <li>・農業実習受け入れ <ul style="list-style-type: none"> <li>8月24日～9月4日 (12日間) 1名 (男)、9月3日～9日 (7日間) 1名 (女)、</li> <li>9月16日～20日 (5日間) 2名 (男1女1)、11月13日～19日 (7日間) 1名 (女)</li> </ul> </li> <li>・その他の現地受け入れ <ul style="list-style-type: none"> <li>卒論研究 (テーマ：農作物の雪室貯蔵、エミュー)</li> <li>公民館活動への参加(幼稚園児への食育学習)</li> <li>厚木キャンパス収穫祭北塩原村ブース出展打合せ</li> <li>エミュー飼育場整備</li> <li>川前カボチャ組合の収穫作業へ参加 (収穫作業)</li> <li>世界学生サミット打合せ</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2.観光資源開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・エミュー繁殖へのサポート。 <ul style="list-style-type: none"> <li>本年度6羽のヒナの孵化に成功し、繁殖のける基礎技術を習得した。</li> </ul> </li> <li>・ザル菊による観光資源開発への協力。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ザル菊の苗を村内農家に配布事業を実施し、村内への普及を目指した。</li> </ul> </li> <li>・キクイモ生産支援など。 <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年に引き続き、生産量増加に向けた支援を実施。</li> </ul> </li> <li>・学生のアイデアを取り入れた農産加工品の共同開発。 <ul style="list-style-type: none"> <li>コーンスープの市販を目指し、村内民宿と共同でレシピの開発を実施。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>		
課題・改善点	<p>北塩原村との連携協定事業は、行政から多大な支援が得られ、これまでも多くの学生が村内で研修を受け入れていただいている。連携開始当初は、農家さんでの受け入れ等において、現地農家さんに多大な負担と不安を強いていたが、双方の理解が進む中でその負担が和らいでいるものと考え、良い連携が取れていると考える。一方で、観光資源の開発において、農産物栽培の拡大や農産物加工の開発などは、道半ばであり観光客の増加や農産物売り上げ増加といった現実の数値への効果は表れていない。今後数年のうちに実際の経済効果として北塩原村の活性化につながる連携となるようにより一層の協業が必要であると考え。</p>		